

スッポリと消えた記憶にちと怯え

藤井 節子

降り立てば桜迎える無人駅

寺畑 俊子

誕生日自分に買った育毛剤

岡田 モモエ

一日とて安まる日なしペルシャ湾

竹本 タエ子

子育ての後悔今だ時効なし

寺畑 末雄

すっぽりときえたきおくにちとおびえ

ふじい せつこ

おりたてばさくらむかえるおじんえき

てらはた としこ

たんじょうびじぶんにかったいくもうざい

おかだ ももえ

いちにちとてやすまるひなしペるしゃわん

たけもと たえこ

こそだてのこうかいまだじこうなし

てらはた すえお

手際よき厨の音や朝桜

田中 孝利

十漕げば笑顔のタッチ半仙戯

馬場 精作

少年の出会いの笑顔風光る

田中 裕子

戦争は嫌だ異国の花便り

賤間 由美子

年間へば三つ指出す初桜

金内 憲一

てぎわよきくりやのおとやあさざくら

たなか たかし

とおこげばえがおのたっちはんせんぎ

ばば せいさく

しょうねんのであいのえがおかぜひかる

たなか ひろこ

せんそうはいやだいこくのはなだより

ざいま ゆみこ

としとへばみつつゆびだすはつざくら

かねうち けんいち

短歌

腕の中で初めてママと呼んだ日を
君は覚えず私は忘れず

賤間 星

熱湯に青菜放てば色冴えて
夫の好きな胡麻和えつくる

河野 美津子

落おけば春の香りの手に染むる
ほっこり膳の夕餉の主役

原田 ヤスエ

里山の桜吹雪に声高む
介護施設の車椅子の人

原田 たえ子

森からは今年の蜜はどんな味
鳥らの会話にぎやかな朝

山口 正子

うでのなかではじめてままとよんだひを
きみはおぼえずわたしはわすれず

ざいま せい

ねっとうにあおなはなてばいろさえて
おっとのすきなごまあえつくる

かわの みつこ

ふきおけばはるのかおりのてにそむる
ほっこりぜんのかうげのしゅやく

はらだ やすえ

さとやまのさくらふぶきにこえたかむ
かいごしせつのくるまいすのひと

はらだ たえこ

もりからはことしのみつはどんなあじ
とりらのかいわにぎやかなあさ

やまぐち まさこ

自由律俳句

心がざわつく日はえんぴつを握る

寺山 玲子

寂しさを鼻歌でまぎらすひとり居

田中 久代

風を感じない 風になったから

権代 祥一

私をおいて私の足がゆく

岡村 裕司

桜ふぶき思い出も舞っている

田中 律子

こころがざわつくひはえんぴつをにぎる

てらやま れいこ

さみしさをはなうたでまぎらすひとりい

たなか ひさよ

かぜをかんじない かぜになったから

ごんたい しょういち

わたしをおいてわたしのあしがゆく

おかむら ひろし

さくらふぶきおもいでもまっている

たなか りつこ

